令和６年度　社会福祉法人オリーブの会　事業報告

メンバー、スタッフ、地域の方々、ひとりひとりを大切にし、多様な価値観・生き方が尊重される社会の実現を目指し、すべての人々がつながりを実感できるよう関連する人々や組織と協働する。

メンバーが自己決定に基づく生活が送れるよう権利を擁護し、必要な支援を切れ目なく提供するため、法人内の各事業で役割を分担・連携し、地域社会において多様な役割を果たせるよう努める。

就労継続支援Ｂ型事業所　オリーブホットハウス

事業計画に則り、メンバーそれぞれのニーズや心身の状態に考慮した支援・作業提供・環境整備・レクリエーションの実施等に努めた。個別のケースに合わせて必要があれば関連する支援機関やご家族も交えてのカンファレンスを実施し、より地域全体での理解と支援が得られるよう、ヘルパー、訪問看護、地域包括センター、保健センター等と連携して支援を行った。各作業現場は職員が孤立しないよう複数のスタッフが関わり職員会議にて話し合いながら運営を進めてきている。

新型コロナ等の状況も落ち着きを取り戻す中、衛生面の配慮など必要な部分はそのまま継続し、柔軟にできる内容については個人の意思を尊重しながら緩やかな警戒を続けた。

職員研修については各分野で内・外とも随時実施・参加し、支援技術知識全般の研修、虐待防止、相談支援・サービス管理責任者研修、セルプの見学・研修等、専門性を高められるよう各職員の学習・見聞を深めた。

防災面では地域の防災訓練への参加、地域の事業所が集まっての研修・懇談会に参加し防災への意識を深めた。一方全体での避難訓練は未実施となっており次年度の課題となっている。

自主・加工・野菜各販売では全般的に売り上げが伸びてきている。外販出店や地域の行事に参加する中でも参加者数や売り上げ、賑わい等がコロナ以前の状態に戻っていると実感することが多かった。R6 年度の授産部門の売り上げや醍醐寺の委託業務が増加していることと物価が上がっていることからメンバーのお給料の見直しを議論しＲ７年度から１０％の工賃アップを実施することとなった。

以上、全ての重要な案件や利用者のケースについて日々の会議を通して複数の職員で話し合い、ご本人のニーズ、安定・安心や成長に寄り添う支援を継続して行って来た。今後もメンバーに必要とされる施設である様に支援を続けていく。

特定計画相談支援事業所　オリーブ相談支援事業所

年間を通じ 2 名体制で業務にあたった。メンバーの様子や連携している関係機関等

で担当を割り振り、計画作成やモニタリング等を行った。他機関とのサービス調整や家族との連絡等、業務内容が多岐に渡るため、関係機関との連携を意識して取り組んだ。また、介護保険事業所等との連携も増えてきており、顔合わせも含め圏域内の研修等へ参加した。

共同生活援助　グループホーム小山の家

報酬改定による変化に応じた形ではなく、ご本人の希望に応じた一人暮らしへ向けた支援としては、圏域の支援センターより依頼があり、サテライトにてメンバーを受け入れ、その後一人暮らしにつながった。その後も、訪問看護事業所等と連携し、自立生活援助として関りを継続した。

通所先の事業所や訪問看護事業所、保佐人等と日常的に連携し、グループホームのみの関りとならないように努めた。自立支援協議会の部会等に参加し、外部との接点を持ち、虐待の防止やグループホームの支援を振り返る機会を設けた。

自立生活援助　自立生活援助事業所小山の家

グループホームより一人暮らしへ移行された方のマンションへ週 1 回程度訪問し、日用品を買いそろえたり、金銭管理を行ったり等、訪問看護事業所や日常生活自立支援事業の山科社協と連携をしながら支援を行った。また、B 型通所のメンバーが病状により通所が難しくなり、通所施設としての B 型の支援としては難しくなったので、自立生活援助として、支援を続け、介護保険のケアマネージャーや訪問看護事業所等と連携をしながら、地域生活を支えた。

こころのふれあい交流サロン　るまんやましな

作業後のメンバーや地域の当事者の方々の居場所の提供に努め、派遣相談等を利用しながら、当事者の方々の相談を聞いたり、こども食堂に社会資源として利用してもらう等、多様な機能を果たせる活動の場となるように努めた。また、ぶらりサロンやサンクスデイ、うたサロン等、地域の方々との交流の機会も積極的に設け、地域啓発の更なる推進に努めた。

■基本方針

① 安定したスタッフ体制の確立

安定した勤務体制を作るため、2 名の新しいスタッフを雇用した。まずは作業場でメンバーと一緒に作業をすることを基本としてもらい、オリーブとして大切にしていること等を作業や全体のミーティングを通じて伝え、理解をしてもらうように努めた。また、大学生や専門学校生のアルバイトも積極的に受け入れた。グループホームでは、世話人として主に夕食の調理にあたってもらうアルバイトの方 1 名とシルバー人材セ

ンターからも 1 名来てもらい、役割の分担を行った。上記取り組みもあり、スタッフも安定し、安心して業務にあたり、休むことの出来る環境を作ることに努めた。

② 報酬改定への対応

報酬改定により、B 型事業所は工賃区分の報酬単価に変更があり、目標工賃達成加算を取ることにより報酬単価が上がった。逆にグループホームは見直しにより報酬単価が下がった。それぞれ共通しているが、加算を取るために事業をするのではなく、現在の状態に応じた加算を取ることを前提としており、結果として数字だけを追うことのない安定した運営を行うことが出来た。

また、各スタッフで分担をしながら各委員会も定期的に実施した。

③ 適切な法人運営

令和 7 年度の改選に向けて、現役員や新しく役員になっていただく方への調整を行い、様々な立場の方々の意見が反映できる法人運営体制を作ることに努めた。移転や土地の購入等の理事会等で話し合うことは出来たが、具体的な話を進めるまでには至らず、今後中長期計画を含め具体的な計画として策定していく。

④ 災害等緊急時の備え

BCP の策定はしたが、日常的な対応を行っていくため、備品の購入や BCP の策定の義務化や令和 5 年 1 月に発災した能登地震等の踏まえ、災害対策や感染対策について、計画に沿って改めてスタッフ間で必要事項について確認していく。備蓄や連絡体制の確保、業務の優先順位等、計画を立てておくことで、有事の際に迅速に対応できるように備えておく。

⑤ メンバーとの協働

メンバーミーティングやレクリエーション、各委員会等、メンバーとの協働の機会を多く設け、一人一人の意見を反映させる事業所運営に努めた。また、同好会も再開し、よりメンバーの主体性を発揮してもらえるように働きかけた。出来る方のみに合わせるのではなく、時として非効率に見えるが、誰一人取り残されないような作業の提供の方法や手順等をスタッフ間で共有した。

令和６年度　オリーブホットハウス　事業報告

■活動内容

(1) 就労支援事業

各項目参照。

平均工賃月額２万５千円以上３万円未満。目標工賃達成加算、目標工賃達成指導員配置加算、福祉専門職員配置等加算Ⅰ、処遇改善加算Ⅰ。

(2) 就労支援

就労後の平行利用、必要に応じた相談支援、助言、関係機関との連携を行った。就労後半年間定着し、令和７年度就労移行支援体制加算予定。

(3) 地域ボランティア清掃

作業後に有志で、近隣へのゴミ拾い等の清掃活動を行った。

(4) メンバーミーティング

毎月 1 日に実施。レクの報告や委員の募集、各作業場の現状の共有、メンバーの意見交換、運営等に対する意見をお聞きし、それらを事業運営に生かした。

(5) レクリエーション、同好会

レクリエーションは引き続き月１度のペースで実施し、一泊旅行では少し遠方（岐阜県）への旅行が実施できた。一方で新しいメンバーや高齢のメンバーが増える中で参加しづらい方もあり、気軽に参加できるような設定も考慮する必要がある。

※別表参照。

(6) 教室活動・文化活動

うたサロンを月 2 回るまんやましなで開催。東野北部第二町内会の秋のつどいで合唱を発表した。

(7) 給食

調理スタッフとメンバーで月、木、金に事業所内で調理したものを提供。食事提供加算は取らず、原価の高騰もあり給食代を 200 円から 300 円に変更したが、利用者数は増加した。

(8) オリーブだより、情報公開・情報発信

オリーブだよりの年３回（8 月、12 月、3 月）の発行。

HP の情報更新。

(9) 地域ネットワーク

山科こころの健康を考える会、京都市障害者東部自立支援協議会（グループホーム部会、働くを支える部会)、山科地域福祉推進委員会、京都社会就労センター協議会（近畿社会就労センター協議会)、京都精神保健福祉施設協議会他。

(10) 実習生・ボランティア受け入れ

〇精神保健福祉士養成

京都府立大学：5 月 14 日～6 月 2 日

大阪保健福祉専門学校

社会福祉科：6 月 3 日～6 月 12 日

精神保健福祉科：10 月 1 日～10 月 21 日

佛教大学：1 月 8 日～1 月 23 日

○精神看護実習

洛和会京都厚生学校：7 月 29 日～8 月 1 日、10 月 31 日～11 月 6 日各 2 名

（12）地域交流

サロン：フリースペース事業や町内会、こども食堂等。

出店販売：洛和会、無印良品、国際交流の会とよなか、京都中小企業家同友会等。

その他、町内会のラジオ体操への景品提供、敬老週間等。

（13）業務委託

○会計指導：中村修二税理士事務所へ委託。

（14）理事会・評議員会の開催

○評議員会

定時評議員会　決議の省略：令和 6 年 6 月 22 日（土）13:00～

第 1 号議案　　令和 5 年度事業報告案決算案

第 2 号議案　　令和 5 年度決算案

報告事項

京都市社会福祉法人指導監査、社会福祉充実計画他

○理事会

第 1 回理事会　令和 6 年 6 月 4 日（水）18:30～

第 1 号議案　　令和 5 年度事業報告案

第 2 号議案　　令和 5 年度決算案

第 3 号議案　　評議員会の招集事項（日時、場所及び議題等）

報告事項

業務執行状況報告、社会福祉充実計画他

第 2 回理事会　令和 7 年 3 月 26 日（水）18:30～

第 1 号議案　　令和 7 年度事業計画案

第 2 号議案　　令和 7 年度予算案

報告事項

地域推進連携会議、業務執行状況報告他

●登録者数　42 名（令和 7 年 3 月 31 日時点）

平均年齢　53.1 歳　男性 22 名（52.4%）、女性 20 名（47.6%）

山科区在住 31 名（73.8%）、伏見区在住 5 名（11.9%）

●登録　8名（見学者14名）

山科区役所より紹介	2名
医療機関より紹介	2名
支援センターより紹介	2名
再通所	2名

見学・実習の問い合わせは途切れることなく順次対応してきている。継続的な利用に繋がった方が6名。 B型施設が急増する中でも各自の個別性への配慮や多彩な作業メニューを有する当施設のニーズは安定しているように思える。見学時には当施設の特徴をお伝えし配慮をもって見学・実習をサポートした。

●退所　6名

通所意向なし	3名
就労	2名
転居	1名

高齢化により通所が困難になるケースもあったが、必要な支援の継続ができるよう連携・引き継ぎを行っている。一般就労2名。障害特性上継続して利用することが難しい方もおられた。また他施設の併用についても引き続き柔軟に対応している。

●利用者数　※別紙参照

●月平均通所者数　20.4名（22.4名）
東野　　17.5名（19.2名）
醍醐寺　3.4名（3.9名）

●月平均作業時間　1095.5時間（1188.7時間）
東野　　830.4時間（895.2時間）
醍醐寺　265.0時間（293.5時間）

●平均工賃　※別紙参照

■ 年間行事スケジュール

	レクリエーション・行事	出店
4月	野外レク（京都府立植物園、京都府立大学）	
5月	BBQ（日野野外活動センター）	
6月	ぶらりサロン（寺町京極、サロンふぅ）	
7月	映画レク（オリーブ）	

8 月	休日開所（8/13） スイーツ同好会	
9 月	卓球とスシロー	エシカルマーケット
10 月	一泊旅行（郡上八幡、下呂温泉、飛騨高山） 事業所フェア	洛和メディカルフェスティバル
11 月	大宅学区防災訓練 ぶらりサロン（大石神社、岩谷寺、青空カフェ）	やましな区民まつり
12 月	忘年会 休日開所（12/31）	町内会秋のつどい 山科こころのつながる市 フェアトレードマーケット
1 月	新年会・初詣（三宮神社）	ふれあい作品展
2 月		
3 月	サロンサンクスデイ	フェアトレードマーケット

■就労支援事業

	令和 6 年度		令和 5 年度	
	金額（円）	構成比	金額（円）	構成比
年間授産収入	10,044,137	100.0%	10,144,946	100.0%
内訳				
① 内職	372,224	3.7%	519,566	5.1%
② 自主製品	686,702	6.8%	844,820	8.3%
③ 農園	1,009,655	10.1%	523,960	5.2%
④ 加工（製パン他）	1,562,480	15.6%	1,394,040	13.7%
⑤ 醍醐寺	6,050,000	60.2%	5,940,000	58.6%
⑥ 公園清掃			498,960	4.9%
⑦ サロン	363,076	3.6%	381,800	3.8%
⑧ その他			41,800	0.4%

① 内職

体験から通所につながったメンバーはまず主に内職に取り組んでいる。安心・安全な場であることはメンバーにとって大事であり、そうした方々が安心し作業に取り組める場として維持してきた。

R6 年度も 4 つの会社（ダイゴ…畳紙、大曜…紙袋作り、京都縫製…お守り、ヤマシナ…ネジの検品、）から仕事をいただき作業に取り組んだ。いただいた仕事に関しては定期的な納品が出来た。R6 年度は目標売上よりも約 10 万少なかった。要因としては、取引

先からいただいていた仕事がストップする月や期間が増えたことと思われる。畳紙、大曜の袋作り、ヤマシナのネジの検品は、紙や袋、ネジが入ってこないとのことであった。京都縫製のお守りの仕上げや、おみくじ作りは安定していただき、他の作業がストップしている時はお守りの作業を増やしてメンバーは作業に取り組んだ。ただし、お守りやおみくじの作業は細かく、メンバーによっては作業が難しかったり、細かい所が気になりだすとストレスになるメンバーもおり、作業を細分化して工夫しながら取り組んでもらうようにした。一方でお守りの作業があることで安定した通所に繋がっているメンバーもいた。出来ればなるべく自ら選択し作業に取り組んでもらいたいが、状況によってはいつもの作業ではない作業（着物ほどきや封筒のハンコ押しなど）をしてもらうこともあった。Ｒ７年度も同じような状況は考えられる。現在取引先があるところと相談しながら別の作業ができないか、また他の取引先を見つけていくなど検討していく必要がある。

R6 年度作業場ミーティングは１回開催した。袋の作業に関してメンバーから意見があり、みんなで一緒に考えた。意見できる場があることは大事なことではあるが、それがしんどさに繋がるメンバーもいる為、その場があることでメンバーの不利益につながらないように工夫は必要である。またミーティング自体参加できないメンバーもいるため、決まったことなどは記録を読んでもらったりして関わってもらうことを意識しておく。

高齢化は毎年の課題になっているが、今年度は１人の方が 3 回ほどオリーブから病院に運ばれた。ケアマネージャーと本人、ご家族と担当者会議を開くなど、こまめに情報共有した。介護保険を利用している方もいるが、日中の活動が障害福祉サービスのオリーブである方も多く、今後もメンバーの日常の変化などは、他機関にこまめに情報共有していく必要がある。

高齢の方は 1 階で作業することが多く、可能な限りスタッフ 1 名は一階で作業するようにした。高齢の方同士で共感する話題ができたり（病院、病気、昔の懐かしい話題など)、好きな演歌を聞きながら作業をしていた。またその中にいる若いメンバーが高齢の方を気にかけて何かをとってあげたり、逆に高齢の方が若い方に優しい言葉をかけたりなど、世代間が違うからこそ生まれる交流も見られた。

◆売上　394,246 円

② 自主製品

今年度もさをり織り、寄付で頂いた着物を使った製品作り、京都府の敬老事業の敬老ひざかけ、山科区役所こどもはぐくみ室の「こんにちは赤ちゃん事業」のエコバッグ作り、ほっとはあとセンターでの委託販売、オリーブでの店舗販売、イベントでの出店販売を行った。

目標売上も達成した。ほっとはあとセンターでの委託販売は前年度が過去最高の売り上げだったが、Ｒ６年度はそれを 10 万円ほど上回る売り上げで過去最高になった。一カ

月に一回は必ず納品し、売れ行きがいい着物バックの他にも、ポーチや帽子、コインケースなど積極的な納品をするようにした。やはり外国の観光客の方が多く、着物を使った商品、R6 年度から本格的に作り始めた帯を使った派手な和帽子などもよく売れた。他の製品も定期的な納品をすると商品が動く印象だった。メンバーには毎月の売れ行きを伝えたり、売り上げ表を作業場に置いて見てもらった。着物ほどきに携わっているメンバーや、それ以外のメンバーも毎月の売り上げに興味を示していた印象だった。

R6 年度は縫製品に関わるメンバーが一人増えた。休みがちなメンバーが少し継続して来られる時もあった。スタッフは作業中は、今している作業がその後どうなっていくかなど詳しく説明するようにした。

着物の寄付は定期的にいろんな方から頂いている。関係者やオリーブだよりを見て、周りに声をかけて集めてくれている方もいた。頂くこと以上にそういった気持ちが嬉しく、地域の方がオリーブを見てくれているのだと思うと、大切に使わないといけないと思う。

京都府の事業で取り組んでいた敬老ひざかけも順調に納品ができた。ただし R 7 年度は京都府がさらに予算を削減するとのことで、これまで通りの敬老ひざかけを作ることが難しくなった。ほっとはあとセンターは長年取り組んできたことや事業所の想いなどを京都府に伝え働きかけをしてくれたが、今年度で終了する見込みである。メンバーにとってはやりがいや負担にもなるほど綺麗なものを仕上げる機会であった。

山科区役所のこどもはぐくみ室からの「こんにちは赤ちゃん事業」で使用するエコバッグは 200 枚の発注があり納品が出来た。メンバーも分担して携わりやすい作業になっている。オリーブの店に、そのエコバッグを持ってパンを買いにきてくれたお客さんがいたというエピソードをメンバーが話してくれたこともあった。R7 年度も 200 枚の納品予定である。より実用的なものでとの依頼があり、R7 年度はきんちゃく袋に形を変え、さをりのワンポイントにビーズをつけて作っていく予定である。

ボランティアの方は 1 名、毎週木曜にほぼ休みなく来てくださった。スタッフに製品作りのことに関して時々厳しく意見をくださったり、メンバーとも会話を上手にしてくださる大切な方である。高齢になってこられているが、変わらず次年度も来ていただきたい。

◆売上：800,190 円

③ 農園

例年と同様に野菜栽培、出荷調整、販売など農園の様々な作業を提供した。昨年度は、1 年間安定して野菜が栽培できたので、メンバーの皆さんには主に収穫、収穫後の調整や袋詰めに取り組んでいただいた。特定の作業が続くことが多くある中で、野菜の成長を見ることが好きな方や身体をしっかりと動かしたい方などメンバーそれぞれが希望する作業の時間を取り入れた。冬季の切干大根づくりは、大根の不作によりできなかった。

それに伴い、雨天時の作業が鷹の爪トウガラシの検品袋詰め作業に限られ、作業が不足してしまう懸念があったが、ポップの台紙切りや前日に収穫していた野菜の洗い、袋詰めなどの作業を新たに取り入れることで作業を途切れずに提供できた。

給食、毎日の味噌汁、加工のパンや漬物の材料として野菜を提供し、自分たちが作った野菜を味わう機会を作った。加工のパンの具材として、野菜を使ってもらう際には、加工場までメンバーから直接届けてもらう機会を設けたり、10 月には、守山の畑のサツマイモの収穫を加工メンバーと一緒に取り組んだりすることで、お互いの作業について理解を深めることや一緒に価値のある商品を作っているということ実感してもらえるように働きかけた。

畑作業に携わるメンバーの人数に大きな変動はないが、年間の総作業時間が年々減っている。体調を崩し作業を変更した方や他の部署の作業を希望して畑作業と併用された方、高齢に伴う体力低下のために作業を変更された方がおられたことが影響して総時間数が減少している。新規で畑作業の体験に来られた方は、3 名おられたが、対人関係の問題や体力的な不安があり、継続利用とはならなかった。屋外で光を浴びながら自然にふれられる畑作業が、精神障害者の方には向いているとされてきたが、屋外の不確定要素の多い環境での作業は、身体的な負担を含め様々な場面でしんどさを感じることが多いと思われる。畑作業の中でメンバーの皆さんにどのような形で作業に携わってもらうか、どのような方が畑作業に向いているのか考えていく。また、保健センターや支援学校など関係機関との連携を通して、オリーブの畑作業の情報を提供することも必要である。

昨年度は、よつ葉ホームデリバリー京滋さんにて、9 月に夏野菜の 2 品セット、1 月に葉物野菜、大根の 2 品セット、3 月にブロッコリー単品の企画販売をさせていただいた。丁寧に育てた野菜を地域の企業であるよつ葉さんを通して、より多くの方々にオリーブの野菜届けられたことは、社会との繋がりを感じる機会となり、メンバーの日々の作業のやりがいや自信となった。一方で課題としては、企画の期間中は、普段より作業量が増えるため、メンバーからしんどさを感じるという声があったことやスタッフもいつも以上に作業に入るため、メンバーへの支援の時間が少なくなることがあった。また、野菜が少ない時期には、よつ葉さんへの納品はできていたが、オリーブの店頭では販売することができなかった。メンバーのやりがいや自信に繋げられるよう、見えてきた課題を改善しながら、今後もよつ葉さんとの関係は継続していく。

	売り上げ	総作業時間
２０２２年度	574,306 円	1,971 h
２０２３年度	469,940 円	1,679 h
２０２４年度	994,300 円	1,297 h

◆売上：994,300 円

④ 加工（製パン・野菜加工）・店舗

計画に則ってメンバーそれぞれの特性・主体性に寄り添った作業提供に努めた。新たに加工に加わったメンバー1 名、体験実習生１名についてもそれぞれの特性に配慮しながらご自身で作業時間・内容を選べるように支援を行い継続できている。

令和６年度も引き続き農園で栽培された野菜を原材料としたパン商品を中心に、焼き菓子や漬物、飲み物等の製造・販売・提供を行った。そのことを通じて購入者や食べて下さった方々との交流、「美味しかった！」のお声を直接受け取ることで感じる達成感や喜びを大切に支援を続けている。

また、５年度の反省から外部販売の負担が過度になることを避けながら、無理なく外部販売に参加し、店舗や通常の販売、前もって生産できるクッキー類の製造・販売を整え、無理せず売り上げも落とさない様に取り組んだ。引き続き、地域の行事への参加も実施し、定例の区役所販売も安定して実施でき、地域でのお店の認知度も日々向上している。お気に入りの商品を求めて来店される常連客も多くなり、野菜販売との相乗効果も大きかった。

今後の課題として現在の体制・設備では生産・販売できる限界量に達していることや原材料費の高騰などの懸念材料もあるため、商品価格や加工事業の今後の方向性を引き続き検討していく必要がある。６年度実施したサロンでのクッキー販売が好調だったが令和７年度はサロンでのパン販売を復活することを予定し準備を進めている。負担を分散できるような人員配置も検討中である。

◆売上：1,594,610 円

加工 90%1,435,149 円

野菜 10%159,461 円

※R6 年度分から野菜の仕入れ分を売り上げの１０％として案分する。

⑤ 醍醐寺

メンバーの個別支援計画に即し、醍醐寺の営繕作業及びトイレ浴室清掃業務を提供し、滞りなく実施することが出来た。見学・実習は随時受け入れていたが新規のメンバーは増えず、固定メンバーがベテラン 4 名のみとなった。しかし、今年度は全員が週 4 回の支援計画に変更になったことでメンバー同士の協力体制がより深まった一年でもあった。

限られた人員でも無理をすることなく、互いに良好なコミュニケーションにつとめ、モチベーションを維持し、これまで以上に順調に作業を進めることが出来ていた。

醍醐寺のスケジュールを事前に把握して担当者との連絡も密に行い、行事に合わせた営繕をタイミングよく実施し、景観の維持に貢献出来ていたように思う。

桜の繁忙期は年々訪日客が増加していることによりトイレ清掃の負担も増したが、メンバーのモチベーションは例年通り高く、R6 年度もしっかりこなすことが出来た。

また、今年度は 9 月、醍醐寺の営繕管理課よりトイレ清掃箇所の追加及び報酬の新たな見積の依頼を受け、メンバーの意向を確認し職員間で検討した上で引き受けることに

なり、10 月より新たな箇所の清掃に取組むこととなった。醍醐寺の職員と来賓の方が主に利用する 3 箇所を週 1 回清掃、及び、宿泊施設のトイレを随時行っている。開始当初メンバーはやや緊張する様子も見られたが、皆早々に慣れ、現在に至るまで順調に作業出来ている。報酬は月額 2 万円の増額となり、これを機にかねてより懸案事項であったメンバー工賃の増額を検討し、結果的に全部門の工賃の 1 割増額の実現につながった。

今年度は週 4 日の現場を 3 名の常勤職員で担当し、週 2 日以上は職員 2 名体制を可能な限り実施し、少人数でも滞りなく取組むことが出来ていた。それに従って上醍醐清掃もおよそ月に 1 回の 2 日間で、コンスタントに実施することが可能となった。

これまで通りレクレーション、ミーティング等の案内を逐一行い、参加率も上々であった。ミーティングの際は、関心のある方はいつでも現場に来てほしいということをメンバー自ら皆に伝えており、見学及び体験実習の受け入れの際は、見学者、体験者に親切な対応を心掛けていた。

メンバーの責任感、また、長年オリーブに所属し同じ現場に携わる者どうしのつながりの安定を感じることが出来た一年であった。

◆売上 6,028,000 円

R5 年度　月額 495000 円、年間 5940000 円

R6 年度　11 月分より 517000 円に増額、年間 6028000 円

⑥ サロン

週 4 日の業務を継続できた。新たに来られた方がご主人と一緒に利用してくださり、地域の当事者の方が安心して来られる場所になっている。オリーブを退所した後も通って来られるメンバーが複数おられる。辞めても気兼ねなく来てもらえる雰囲気を保つことができた。

オリーブメンバーの作業としては年度末に一人増えている。いろいろな事をやってみたいという強い想いを持つことが特性のメンバー。様々な人の話を聞け、自身の参考になると積極的に取り組まれている。水曜、木曜、金曜はメンバーがシフトに入る事が出来ている。他のメンバーは対人関係に不安があり作業に入る事は無かった。

サロン内での飲食はサロン内で販売し始めたゴマチュイールとラングドシャ・スノーボールのみ可能とした。飲み物と一緒に食べるのに調度良い量で喜んでもらえた。加工の作業に入っているメンバーの達成感に繋がっている。

ぶらりサロンを 2 回開催。寺町京極をぶらり、大石神社をぶらりと半日のレクとして、それぞれ工夫を凝らした過ごし方を考えて開催した。日頃と違う場所で同じ時間を過ごす事で、違う一面が見えたり親近感がわいたりと繋がりを感じられる行事になっている。また、サロンに新たに来られた方も参加され地域の方とのつながりも広がっている。

コロナ以降止めていたサンクスデイを開催。地域の社協の方を含め 17 名でお茶やお菓子、ビンゴやクイズと一緒の時間を共有し交流が出来た。いろいろな話しをし、ゲーム

を一緒にやり、お互いをより深く理解し合えるきっかけになった。

親の介護の合間や買い物の合間に来られる方、作業の合間や終わってから気持ちの区切りにしようとするメンバー等サロンが生活の一部になっている方が多い。コロナの時期に一般のお客様が激減したが、当事者の方はほぼ減ることなく来られていた。当事者の方のニーズは安定してあり、地域にとって特に当事者の方にとっては必要な場所になっている。日頃の喫茶業務の中で悩みや不安を聞かせてもらう事もしっかり継続することが出来た。またぶらりロンや歌サロン、フリースペースに加え 1 月から子ども食堂に場所を提供している。情報の交流の新しい機会になっている。

	開所日数	利用者数	一日平均利用者	売り上げ
2023 年度	188	2,587	13.8	367,950
2024 年度	176	2186	12.4	351,650

◆売上：351,650 円

令和６年度　オリーブ相談支援事業所　事業報告

■基本方針

① サービス利用計画の作成

主にオリーブホットハウスを利用されているメンバーのサービス等利用計画を作成し、日々の情報共有に努めた

精神障害者支援体制加算Ⅱ。

② 継続的なモニタリング

関係機関と連絡を取り、モニタリング機関のご本人の様子を共有し、ご本人の希望に応じた継続的なサービスの提供に努めた。

③ 訪問支援

モニタリング時にご自宅を訪問し、必要に応じて関係者会議を実施した。

④ 相談支援

オリーブホットハウス、グループホーム小山の家のメンバーに対し、適時面談や訪問等通じた継続的な相談支援を行った。

居宅介護事業所との連絡・調整、家族への連絡、訪問看護事業所との連携等を日常的に行った。また、メンバーの不調時には、医療機関や居宅介護事業所 HH 等と連絡・調整し、役割分担等を確認しながら、個別の対応を行った。

⑤ 専門性の高い相談支援体制整備

相談支援専門員を 2 名体制とした。精神障害者支援体制加算を算定し、専門性の高い相談員を配置した。両者ともに精神保健福祉士、介護福祉士。また、新たに 2 名のスタッフが相談支援専門員の資格取得研修に参加した。

介護保険事業所やケアマネージャー等との連携も必要となってきているため、圏域内の研修に参加し、専門性の向上、法制度の知識の向上等に努めた。

利用支援 20 件/継続支援 21 件

令和６年度　グループホーム小山の家　事業報告

■基本方針

① 個別支援の継続

〇入居者５名。男性３名、女性２名。平均年齢 46.2 歳。

〇区分５：１名、区分４：１名、区分３：１名、区分２：２名。

〇日中活動：オリーブホットハウス３名、他のＢ型事業所２名。

〇生活保護受給２名。成年後見制度利用１名。訪問看護利用２名。

食事提供、服薬管理、金銭管理をメンバーのニーズに応じグループホームで行い、適時成年後見人や訪問看護事業所等と連携した。週末等定期的に実家に帰宅されるメンバーもおり、その際の家族と連絡調整を行った。定期的に支援者や家族と情報共有の場を設け、関係機関と連携した個別支援の提供に努めた。

福祉専門職員配置等加算Ⅰ、夜間支援等体制加算Ⅰ、人員配置体制加算Ⅰ、処遇改善加算Ⅰ、自立生活支援加算Ⅰ。

② 日中支援の拡充、一人暮らしへの支援

日中活動をしてもらうことを原則としているが、毎日通所が難しい方もおられるため、必要に応じ、日中に直接的な支援や利用されている訪問看護等の関係機関と連携をしながら見守りを行った。

また、一人暮らしについては圏域の支援センターより依頼があり、ご高齢の親御さんと同居しておられたメンバーを一人暮らしへつなげていく前提にサテライトで受け入れ、約４カ月後に一人暮らしへ移行された。自立生活援助事業として支援を継続中。また、一人暮らしを視野に入れ、他のメンバーにもサテライトを利用してもらった。

③ 夜間支援及び緊急時の対応

夜勤職員を配置し、夜間時間帯での見守り、不眠時の頓服対応等必要な支援を続けた。サテライト利用者を含め、緊急時の対応がとれるようにＢ型事業所と連携をし、24 時間の支援体制をとった。また、一人で業務にあたることが多いので、休日や夜間の支援、防災、急病等に対応できるように連絡体制を整備し、必要に応じてフォローを行った。

④ 他機関連携

通所先のＢ型事業所や支援センター、訪問看護事業所、成年後見人等と日常的に連携し、グループホームだけで支援を抱え込まないように努めた。また定期的に情報共有をする場を設け、様々な機関と連携して地域生活を支えることを意識した。

⑤ 外部研修や他のグループホームへの見学

サービス管理者研修等へ参加し、専門性の向上に努めた。圏域の自立支援協議会のグループホーム部会へ参加し、圏域の他のグループホームとの情報交換や取り組みの共有、研修へ参加した。計画をしていた他のグループホームへの見学等は出来なかったため、他機関と調整して進めていきたい。

■事業内容

(1) 共同生活援助計画の作成（スタッフ分担）

(2) 相談援助

(3) 食事の提供

月曜日から金曜日の朝食、夕食を提供。夕食作りのスタッフを1名雇用。もう1名週に1回シルバー人材センターより夕食作りに来てもらう。

(4) 健康管理・金銭管理

訪問看護事業所や成年後見人と連携し、日常的な金銭管理をグループホームで行った。また、適時医療機関を連携した。

(5) 緊急時の対応

コロナ感染や急な発熱等の際に、近隣の医療機関に受診同行し、その後の療養期間についても、食事提供や食材、日用品の買い出し等を行った。

(6) 日中活動の場等との連絡・調整

サービス等利用計画のモニタリングや関係機関とのカンファレンス等へ参加。

(7) レクリエーション（個別のニーズに応じた社会資源活用の援助）

4月焼肉食べ放題（やるき枷辻店）

8月ＧＨ内でピザレク

12月紅葉レク（三井寺、丸亀製麺坂本店）

(8) 余暇活動の援助

人暮らしへ向けた家電や日用品、衣料品の購入支援。

(9) 定期的な巡回訪問

サテライト利用者の見守り。

令和６年度　自立生活援助事業所小山の家　事業報告

■基本方針

①　「定期的な訪問」、「随時の対応」、「同行支援」

グループホームより一人暮らしへ移行されたメンバー1名のマンションへ週に1回程度定期的な訪問を続けた。金銭管理をグループホームで行っていたが、山科区社協の日常生活自立支援事業を利用され、訪問看護事業所等とも役割分担を行いながら見守りを継続した。一人暮らし前より家電や日用品等の購入へ同行した。

日中の B 型事業所へ通うことがしんどくなり、ご自宅で訪問看護や居宅介護を使って生活しておられたが、年末年始等訪問出来ない期間もあったため、自立生活援助としての訪問を始めた。連絡帳等を使いながら、日々の支援を共有し、病状に応じた声かけや支援に努めたが、入院する結果となった。

②　地域における生活支援の体制作り

上記のように関係機関と連携することにより、一人暮らしへのスムーズな移行と、継続した支援体制を作ることに努めた。サテライトからの一人暮らしへの移行は 3 例目であり、ある程度のイメージやパッケージを作ることができ、必要な支援や対外的な連携がわかるようになってきた。今後もグループホームのサテライト利用も含め、本人のニーズに沿った支援を出来るように努めていきたい。

■活動内容

（１）　自立生活援助計画の作成（標準利用期間 1 年間）

（２）　定期的な居宅訪問

基本は週 1 回の訪問を継続。

（３）　随時の連絡を受けて行う訪問、電話等の相談援助（グループホーム夜勤者との連携）

関係機関と連携し、必要に応じ週 1 回以上の訪問。

（４）　日常生活における課題の把握

訪問を通じ、見守り。必要に応じて関係機関と情報共有。

（５）　必要な情報の提供及び助言

日用品の購入への同行や HH が対応できない時等に買い物代行や調理。

（６）　関係機関との連絡調整

訪問看護事業所や居宅介護事象所等と日常的な連携を行った。

令和６年度　るまんやましな　事業報告

■基本方針

こころのサポートふれあい交流サロン事業目的

⑴精神障害者の地域社会における孤立を防ぐため、地域での交流の場を確保するとともに、精神障害者が社会性や社交能力を養うための支援を提供する。

⑵ボランティア活動を希望する市民に活動の場を提供し、市民参加型の精神保健福祉施策の展開を図る。

⑶事業の実施により、地域啓発のより効果的な推進を図る。

⑷生活情報の提供・交換、日常生活の相談、地域との交流など、多様な活動の場を提供する。

上記目的に沿った事業を展開した。

うたサロンは、年間通じて開催し、町内会の秋のつどいで合唱を披露した。地域の方々の参加も多数あり、今後活動、発表の場所も広げていく。

ぶらりサロンは６月と 11 月の２回行い、地域の方々と一緒に、カフェや寺社仏閣を巡った。Ｂ型のレクとは違い、地域の方々の参加が、地域啓発の大きな役割を果たしている。

オリーブホットハウスで作った、お菓子の販売を再開し、これまで同様紫蘇ジュースや金柑ジャム（金柑は畑のオーナーからの寄付）等を使用し、オリジナルのドリンクを提供した。販売等を通じ、オリーブホットハウスの事をより知ってもらう機会になっている。

これまで同様、大宅学区社会福祉協議会が主催するフリースペース事業がるまんの定休日の第２火曜日に月に１回開催された。また新規で令和７年の１月より、毎月第３日曜日にこども食堂も開催されている。いずれも、オリーブのスタッフが役割を担うのではなく、地域の福祉関係者やボランティアの方々が中心に運営をしており、市民参加型の活動の場の提供になっている。

他の事業所に在籍されていなかったり、個別のケースで連携できる関係機関がない方もおられるので、対応が難しい時もあるが、その都度Ｂ型のスタッフが個別に対応をしてきた。また、派遣相談等を利用しながら、地域にとって必要な場所として事業を行ってきた。利用者は減少傾向にあるが、上記事業等を含め、数だけでは計れない事業を幅広く展開してきた。多様な活動の場所を継続するには、地域の様々な機関や人と連携していく必要があるため、スタッフの体制を含め、それが実現できる体制を今後も継続していく。

年間行事

4 月		10 月	
5 月		11 月	町内秋祭り、ぶらりサロン
6 月	ぶらりサロン	12 月	
7 月		1 月	
8 月		2 月	
9 月	敬老週間	3 月	サンクスデイ